

〈特集〉 シリーズ：研究の技法

— 大学院生のための実践的ガイド — (第2回)

埼玉大学大学院人文社会科学研究所
大学院カリキュラム委員会

埼玉大学大学院人文社会科学研究所（経済経営系大学院）は、専門的な学術論文の執筆を目指す社会人と留学生のための研究教育機関というコンセプトを掲げる大学院であり、創設以来、これまで多くの学生が本学で学び、学位論文を執筆してきました。卒業生の中には、大学や研究機関において研究者として、第一線で活躍されている方々も数多くいます。みなさんも、本研究科において研究に精進していただき、立派な研究者として巣立っていくことを期待しています。

本誌『経済科学論究』は、本研究科の在学生・修了生の研究成果の記録であり、毎年1回刊行され、今回で第19号になります。働きながら学術論文を執筆するというのは、どのようなことに取り組むのかを知りたい人は、まずはバックナンバーを紐解いてみてください。多岐にわたる分野における興味深い論稿が見つかると思います。

本シリーズ「研究の技法」は、埼玉大学経済経営大学院で学ぶ大学院生を直接の対象とし、社会科学の研究とはどのようなものか、論文作成のプロセスではどのようなステップをふむと良いのか、博士論文では何を検討・議論するのかなどといった、誰もが知っておくべき事柄や研究を進める上で参考となる事柄について、実践的なガイドを提供するために企画されました。

シリーズ第2回となる今号は、経営戦略論・組織論を専門とする宇田川元一先生に「3つのパズル解きとしての研究 — 素人的研究の方法」と題した論稿をご寄稿いただきました。研究を行うとは一体いかなる営みであるのか、とりわけ社会人が学術的な世界で格闘することの意義はどこに見出せるのかについて、ご自身の経験をもとに「3つのパズル解き」という魅力的なストーリーで描かれています。埼玉大学経済経営系大学院は、単に高度な専門知識や実践的なスキルを体得することを目的とするのではなく、学術論文を執筆するプロセスを通じて、学問分野において自らの認識を相対化すると同時に、その先にある新たな世界の発見を目指しています。宇田川先生の論稿は、こうした本研究科の掲げるミッショ

ンについて、卓越した文章で物語る内容となっています。

「研究の技法」では、次号以降も様々なテーマ・トピックスを取り上げていきますので、大学院での研究のガイドとして活用していただければ幸いです。